



**写真13 逓信省型 中継電鍵 (有線用)**  
 逓信省仕様 仕第247号により、音響モールス二重通信用として明治 - 大正 - 昭和30年頃まで使用されたが、電報サービスの機械化により姿を消した。「新興製作所：のちの谷村新興」の銘板があり、二重通信用のスイッチが付いている。



**写真14 逓信省型 中継電鍵 (有線用)**  
 写真13と同様だが、本品は一回り小さな仕様となっている。全国の電報電話局のほか、自営有線回線用としても使用された。「仕第247号、昭和23年用賀精工社製造」という銘板が付いている。



**写真15 逓信省型 信号用電鍵 (有線用)**  
 構造的には逓信省型甲種単流電鍵と同様だが、接点がきわめて太く、堅牢な作りとなっている。戦前に発光信号断続用として使用されたもの。沖電気製。



**写真16 逓信省型 交換打ち合わせ用単流電鍵 (有線用)**  
 逓信省型甲種単流電鍵よりひと回り小さい。市外電話交換と中央電話局間の二重信という音響式モールス連絡回線に、電話交換手が電話回線接続の打ち合わせに昭和20年代頃まで使用していたもの。



**写真17 逓信省型 練習用電鍵 (無線用)**  
 外観は、写真7と同じだが、戦前に無線従事者養成校で練習用として使われたもので、有線用のものを流用している。この形状のものは、写真7、写真9、写真10、写真11と各用途ごとに多少のバリエーションがあるものの、基本構造などは同様。



**写真18 逓信省型 練習用電鍵 (無線用)**  
 本品も銘板はないが、昭和30年頃くらいまで無線従事者養成校で練習用として使われたもので、本来は有線用のもの。大きさは写真5とほぼ同等。